

関西学生ポルトガル語暗誦大会でまたまた県大生が快挙！

去る7月9日（土）に京都外国語大学で第35回関西学生ポルトガル語暗誦大会が開催されました。本学からは大学1年生である初級の部に3名、大学2年生である中級の部に2名が出場しました。暗誦課題は初級の部、中級の部ともにブラジルの有名な歌の歌詞で、初級の部はPixinguinhaのCarinhosoを、中級の部はMilton NascimentoのBola de meia, bola de gudeを発表しました。初級の部では、本学の学生3名のほか、京都外国語大学から5名、天理大学から2名の計10名が出場し、外国語学部国際関係学科1年の松崎未侑（まつざきみゆ）さんが優勝、また、同国際関係学科1年の山田哲史（やまださとし）さんが準優勝に輝きました。また、中級の部では、本学の学生2名のほか、京都外国語大学から4名、天理大学から2名の計8名が出場し、外国語学部国際関係学科2年の荻島千里（おぎしまちさと）さんが優勝しました。

こうした素晴らしい結果が得られたのは、もちろん、本人の努力の賜物ですが、本番にベストパフォーマンスができるような環境をつくりあげた家族、友人、クラスメイト等、周囲の協力のおかげでもあります。この場を借りて、ご協力くださった皆様に厚く御礼申し上げます。

この大会出場がきっかけとなり、ポルトガル語への関心がさらに高まり、学習を進展させ、ブラジルに留学した人も何人もいます。今回の大会で入賞が叶わなかった人も、細かなところにまで気を配りながら練習に練習を重ね充実した時間を過ごすことで、得るものはたくさんあったと信じています。ぜひ、自信を持って、今後もポルトガル語学習を続けて欲しいと思います。

最後に、日ごろのポルトガル語の学習成果を発表する場、ならびに、ポルトガル語の学習者どうしが刺激を与えあえる場があればと、2010年からエントリーをしてきたこの大会ですが、この夏で出場回数5回を数えました。お陰様でその5回すべての大会において、初級の部、中級の部ともに本学の学生が優勝の栄冠に輝いています。

朝早くから夜遅くまで、ともに熱い日々を送った学生のみなさんに心より感謝いたします。

文責：国際関係学科 高阪香津美



最前列の左から2人目：山田さん、中央：松崎さん、右から2人目：荻島さん

※写真は京都外大の運営スタッフによる